



薄い文字をゆっくりなぞりましょう

ながめせしまに

わが身世にふる

いたづらに

うつりにけりな

花の色は

作者： 小野小町

年代： 平安時代前期

出典：『古今和歌集』・小倉百人一首

意味

桜の花が長雨の間に色あせるように、
私の美しさも物思いにふけっているうちに衰えてしまった、という歌です。

